

第3回新居浜市政策懇談会第4ワーキンググループ（市民安全）会議 会議録

日時 令和2年1月22日（水）10時から12時10分

場所 新居浜市市民文化センター4階大会議室

出席者	座長	新居浜市連合自治会	日野 幸彦
	委員	新居浜市ボランティア連絡協議会	岡 熙美
	〃	新居浜市公民館連絡協議会	高田 実
	〃	新居浜地区防犯協会	久石 保
	〃	新居浜市消防団	山内 敏男
	〃	新居浜防災士ネットワーク	馬越 健
	〃	新居浜市PTA連合会	伊藤 義男
	〃	にいはま女性ネットワーク	三股 智美
	〃	新居浜市国際交流協会	土井 美智子
	〃	新居浜交通安全協会	吉岡 敏高
		(三木委員は欠席)	

職員	市民部長	原 正夫
〃	消防長	毛利 弘
〃	市民部総括次長兼地域コミュニティ課長 (コーディネーター)	長井 秀旗
〃	市民部防災安全課長	竹林 栄一
〃	市民部男女共同参画課長	松木 真吾
〃	消防本部総務警防課長	中川 雅彦
〃	市民部地域コミュニティ課主幹	沢田 友子
〃	企画部地方創生推進課副課長	高橋 憲介
〃	企画部総合政策課まちづくり担当	藤井 隆嗣
〃	市民部地域コミュニティ課係長	小野 崇彦
〃	市民部地域コミュニティ課主事	平田 遥
〃	市民部男女共同参画課係長	大野 友里
〃	市民部市民課係長	堀口 美穂
〃	市民部市民課係長	塩崎 明美
〃	市民部市民課主査	園部 有澄
〃	市民部防災安全課係長	高橋 恵美子

発言者	内容
座長	<p>それでは、定刻がまいりましたので、ただいまより第3回新居浜市政策懇談会第4ワーキンググループ（市民安全）会議を開催いたします。</p> <p>本日は委員の皆様方にはご多忙にもかかわらず、多数のご出席をいただきまして、ありがとうございます。</p> <p>それでは議事を進めてまいります。</p> <p>本日は、第4ワーキンググループの検討内容のうち、前回時間切れとなった地域コミュニティと消費生活、男女共同参画、移住・定住の促進、ボランティア、国際交流について、意見交換をいたします。</p> <p>それでは、ここからの進行は事務局にお願いします。</p>
コーディネーター	<p>まずは消費生活の項目から始めたいと思います。シートの6-3を開けてください。</p> <p>「消費者の自立支援と相談体制の充実」というのが大きな項目になります。5次の基本計画の中の一番上です。「消費生活相談体制の充実と関係団体との連携強化」というところで、第6次の主な取組内容を赤字で書いておりますけど、今後10年間を見据えた中で高齢化が進んでくるということで、見守りネットワークの活用による高齢者等への情報提供と相談体制の充実といったものを新しく加えております。それから、真ん中の段が「消費生活改善の意識啓発と情報提供」ということで、これまでの出前講座・消費者講座の実施に加えて消費者教育の推進という項目を加えております。これはですね、中学生・高校生といった若年層を対象にした消費者問題でありますとか、消費者トラブルに対して、若い頃からの教育が大事ということで加えております。</p> <p>一番下は適正な計量の推進ということになります。ちょっと簡単に申しあげますと、計量業務はお店で使っている量りがありますよね。2年に一度きちんと適正化どうかという検査を市で行っております。そしてもう一つはですね、お店で売っている商品に何グラムという表示がありますけど、要は風袋を除いたものがちゃんと表示どおり間違いなく入っているかどうかということをスーパーに行って検査をするような業務をやっております。計量については、引き続き今までどおり継続してい</p>

	<p>くということで考えております。</p> <p>消費生活をまずテーマとしたいと思います。今日担当が来ておりますので、消費者トラブルが増えているかどうか、どんなことが問題になっているかを少しお話していただいでよろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>市役所の2階に消費生活センターがありまして、消費者庁をトップとした組織になっており、消費生活で買い物した時などにトラブルになった時に相談に来ていただく所です。相談として多いのは、昔から多いのは高齢者が巻き込まれるトラブルや詐欺に関する相談が多いです。多重債務も結構あります。最近特に増えているのは、若年層で学生とか社会人でも若い人が増えてきています。やっぱりインターネットとかスマホも普及している時代で、高齢者もスマホを持っている、インターネットで買い物もする方が増えていて、トラブルに巻き込まれることが多い。昔は支払いも現金だけで単純な構造だったのが、インターネットを介して買い物をすることによって間に色々な業者やプロバイダとかが入っていたり、支払いもカードとかだと、カード会社も巻き込むということになって単純なトラブルでは済まなくなっている。件数が増えているのに加えて複雑化してきている。若い人の多重債務が増えてきているのも心配なところですよ。</p>
コーディネーター	<p>ありがとうございます。ネット社会になりまして、トラブルが増えていて、高齢者の詐欺とかありますけど、若年層の多重債務も増えてきている状況であります。今から10年後もトラブルはなくなることはないのかなと思いますが、やはり啓発ということが大事になってこようかと思いますが、何かご意見はありますか。</p>
委員	<p>消費者教育の推進というのは、中学生とか高校生に重点を置いているということですが、私もコンビニと行ってスマホで購入できるとか、ポイントがたくさん付くからということで飛びついたら、20万円損したという話を聞いたことがある。我々も含め年齢が上がってくると、PayPayとか分からないので、要は騙されないように高齢者も消費者教育をしてもらいたいと思</p>

	<p>っています。</p>
<p>コーディネーター</p>	<p>ありがとうございます。消費生活を学べる場が必要であろうということですが、PTAとか若い子たち向けにそういうことをやっていらっしゃるでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>さっき言われていたインターネットでの購入とかに対する注意は学校ではそれほど。LINEとかのSNSのトラブルについてはやっていると思う。今話を聞いて、ネットのトラブルについて注意が必要だと思いました。新居浜は電子マネーを取り入れている店が少ないのですが、外国人がお金を使いやすいと思うので、新居浜の企業が利用できるよう市が支援していけばいいと思う。</p>
<p>コーディネーター</p>	<p>他に意見はありますか。</p>
<p>委員</p>	<p>対象が高齢者や児童という日本人だけではなく、外国からの実習生は3年たったら帰国するのですが、定住する外国人も含まれてくると思うんです。最近の話で言うと、自分の国の宝くじみたいなものを騙して買わされて借金が増えてきたという話があります。今の段階では会社の中だけで解決しているという形なんですけど、これが定住者となると、市に相談に行くという形になると思います。そういうときの対処の仕方を考えていただきたい。</p>
<p>コーディネーター</p>	<p>ありがとうございます。外国人も含めいろんな方が被害にあう可能性がありますので、窓口でしっかり対応できるような体制づくりが必要であろうということです。消費生活センターを皆さん知っていますでしょうか。今3人の相談員が色々相談にのっていますけど、これからは多言語やハンデのある方も含めた対応の強化を考えなくてはいけないことだなと思います。他にご意見はありますか。</p>
<p>委員</p>	<p>高齢者の教育も必要ですが、キャッシュレス時代というのは、10年後どうなっているのでしょうか。現金はいらなくなるのでしょうか。スマホとかは信用してないので利用してないので</p>

	<p>すけど。昔は、現金で払えば割引があったのに、今は後払いすればポイントが付くとか割引があるとか全然違うのですが、10年後はどんなふうに進んでいくのかすごく心配で不安があります。</p>
コーディネーター	<p>10年後、私の予想ですけど、電子マネーがかなり普及するのではないかと。国をあげてキャッシュレスをすすめている状況ですので、かなり進展するのではないかと思います。</p>
委員	<p>逆に10年後にキャッシュレスという可能性が高いのであれば、市独自のカードを作るなり市民の安全を守るため、市がフィルターとなってこれは使えるこれは怪しいという形のものを作ればある意味安心、キャッシュレスに対応できるのではないかと。10年後を考えるのであれば、そこまで考えてもかまわないのではと思いますけどいかがでしょうか。</p>
コーディネーター	<p>市独自のカード、市がフィルターとなって、独自の運用をしたらいんじゃないかというご意見でした。市独自でどれほどのことができるかというのは難しいところではありますけど、今現在、マイナンバーカードの普及を図るということで、色々、健康保険証として使えたり、ポイント還元という取り組みを国が進めています。また、少し違うのですが、市で新しくポイント制度を導入しようということで現在取り組みが進んでいます。まだちょっと今からどうなっていくか分からないのですが、市独自のコインを流通させることは難しいか分かりませんが、被害に遭わないための安心安全な情報を市民に向けて積極的に発信していくがこれから重要になっていくと思います。他にありませんでしょうか。</p>
委員	<p>高齢者への情報提供ということに関しては、各校区に見守り推進員や民生委員がおります。両者がこまめにまわっていますので、チラシとか渡してそれに応じて一声かけるということをそれぞれやっております。</p>
委員	<p>先ほども言ったのですが、契約をした時に契約解除ができるものできないものがあるんですけど、それが高齢者や若い人が</p>

	<p>認識してない部分があろうかと思います。広報紙を使ってクーリングオフについてもっと分かり易く市民に提供したり、会合でも話していただけたらと思います。</p>
<p>コーディネーター</p>	<p>ありがとうございます。今、久石さんの方から、見守り推進員や民生委員のネットワークというのがありましたけど、今現在、消費の相談窓口といった福祉の部門それから地域包括支援センター、あるいは場合によったら警察と連携して被害に遭わないようにまた被害が拡大しないようにしていく取り組みを進めております。今後はこういった見守りのネットワークを強化していった安心安全なまちづくりを進めていこうと考えております。他ないでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>消費生活センターの方に質問ですけど、市内でもよく空き店舗を利用してお年寄りを集めて商品を見せたり景品を渡したりして契約を促進させるというのを見かけますけど、問題なんかは発生してないんですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>健康講座みたいなものとか色々な形態があって、景品をあげるからといって人を集めて、これいる人はいはいって手をあげて先着何名様みたいなその場の雰囲気盛り上げて高揚した頃に高価な商品が出てくるとか色々ありますが、一概に怪しいとか詐欺とは言えなくて、この値段で売ります買いますというように、消費者が納得して買ってるんだっいたらいいのですが、その場を煽って買わせるというのは問題だし、その時の対策としてクーリングオフがあるんです。家に帰って落ち着いてみたらやっぱり必要じゃなかった、こんな高いのはおかしいとかいう時に一定期間内だったら解約できるクーリングオフという制度があります。一概に問題があるというわけではなく、実際使ってみたら説明どおり良かったというのであれば何も問題ないので、市や警察から営業しないでくださいとは言えない。ただ、やっぱり返品したいというのであれば、決められた期間があるのでなるべく早く消費生活センターに相談してくださいと出前講座でも話しています。</p>
<p>コーディネーター</p>	<p>ありがとうございました。気軽に相談することクーリングオフ</p>

委員	<p>も含めて、このような制度があるということを市民の皆さんに伝えるということが大事になってくると思います。</p> <p>逆にお聞きしたいのですが、消費者教育の推進ということですがどのような教育をされるのですか。</p>
事務局	<p>今現在実施しているものを、学校の授業の中に組み込むというのはカリキュラム的に難しい。消費生活というのは、科目では家庭科になるようで、数年前から、家庭科の先生がどういうふうに生徒に教えたらいいいのかという相談に来られて色々やりとりをしており、今年中学校で、体験授業というか先生も含めた研修授業に呼ばれて授業をしました。主には先生が話すんですけど、一部を相談員が話すというのをしました。あとは、小学校も授業では難しいんですけど、夏休みに子供さんを預かる児童クラブでも授業の依頼があって、最近はお金の使い方がわからない子が結構いて、低学年を中心に話をしました。</p>
委員	<p>内容ですよ。お金の使い方なのか、一番ネックなのは、我々もそうですが、日本人は昔から契約書というものに対して読み込むという力がないし、あれだけ大事なことが書いてあってもあんな小さな文字で書いてあってハンコを押せと言われて、読んでも理解できないという中で、国とかでそういう話はないんですか。企業に有利なことばかり書いてあって、消費者がこうしたら助かるよっていうのはほとんど書いてない。ほとんどの人が読み込んでないし理解してない、だからトラブルが多いと思うんですけど、子どもにお金の使い方を教えるのか契約書の読み方を勉強させるのかで全然違って来るだろうし、日本人は昔から信用関係で売買していたのが、そこに悪意の人が入ってきて、法律に基づいて企業に有利なことしか書いてない中でそれをどういうふうに読み解くのか、字をもっと大きく高齢者でも読める大きさに改革していくという話を国に提言しないんですか。消費生活センターとしては、皆さん読みますか。あんな小さい字。読まれた方いますか。今日出席されている方全員理解できますか。保険でも、説明する人を信用しているのであって、そこに悪意が入ったら契約解除できないとか書いてあると思うんですけど。そういう教育にするのか、お金の使い方</p>

事務局	<p>というのは昔からあると思うんだけど、消費者教育というのであればそういうことは考えられたことないんですかね。</p> <p>紙の契約もそうですけど、そもそも口約束でも契約は成立するのであって、例えば出前でお寿司を電話で注文する時も契約になるんです。ハンコ押してないからといって、お寿司がいらなくなると断れるかと言ったら厳密には契約違反なんですというところから教育なんです。契約書の字が小さいのは相談員も読むのが大変で、自分も実際は読まないですけど、でも買う側、消費者の責任もあって、契約をして買う以上は、読んで理解してハンコ押してるんでしょということをつらぶらなったら言われます。なるべく読んでくださいということは出前講座とかで高齢者にも言っておりますが、もちろん字が小さくて読めないし、読んでも理解できないと思います。様式は全国的なものなので国に字を大きくという提言は消費生活センターではしていません。ただ、ハンコを押した後になって読みにくいから読んでない、でも解約してということでは通らないんですよという教育をしていかないといけないというのは思っています。ハンコをその場で押さないということ、例えば若い人とかに相談することや、第三者、専門的な、市でいうと消費生活センターになるんですが、事前に相談に来られる方も実際いらっしゃるんです。実際にトラブルにあってからの相談だけでなく事前にこれどうだろかという相談も受けています。相談する知恵、知識というのも出前講座では話しています。</p>
コーディネーター	<p>ありがとうございました。契約社会ということですので、契約は大切ですよという教育は大切であろうと思います。契約書の文字が小さいということについては、どういうことができるかわかりませんが、高齢化社会になってくると何か工夫が必要になってこようかと思っておりますので、何か情報発信ができることがあれば、行っていきたいなと思っております。では、消費生活は以上で終わりたいと思います。</p>
コーディネーター	<p>続いてシート 6-4 「男女共同参画社会の形成」について担当課より説明いたします。</p>

事務局	< 作業シートに基づき説明 >
コーディネーター	男女共同参画は長年取り組んでいる大事なテーマでございます。今から 10 年後、女性の社会進出は進んでいく、あるいは女性が活躍する社会をつくっていくことが大事な事と思いますが、男女共同参画は進んでいると思いますか？また今後 10 年男女共同参画社会は進んでいくのでしょうか？
委員	<p>10 年前を考えると、少しは女性活躍の場は増えていくだろうと思います。やはり、男性の意識が全然変わっていないという所があって、女性の活躍というのがなかなか見えてこない部分もあります。</p> <p>質問ですが、「女性リーダーの育成」となっていますが、今まで若手女性リーダーを継続して育成してきて、今現在、どのようなところで活用されていますか。</p> <p>それと、DV ですが、国際結婚がかなり進んでいます。国際結婚をしていると少なからず DV が発生します。そういう時にどこに相談したらよいかとなった時に日本人の友達から教えてもらって市役所に辿り着くのですが、トイレ等に DV の相談窓口のステッカーを張っていますが、それは日本語なので、やはり多言語が必要であると思います。</p>
事務局	<p>若手女性リーダーの育成ですが、「女性ネットワーク」というのがあります。そこがどのようなところで活用されているかという事になりますが、各企業・団体から出ておりますので、具体的なリーダー育成というよりも、幅広い「ワークライフバランス」とか「イクボス」などについてテーマを設けて研究や協議をして、DVD とかパンフレットとかある一定の成果にまとめたような活動をしております。そして自分の職場や団体に帰ってそういった意識を広げていただく、あるいは地域でも活かしていただけるようと考えております、</p> <p>DV の国際結婚の事については、今言われたように日本語のみでありますので、多言語化を含めて今後考えていきたいと思っております。</p>
コーディネーター	委員さんからは 10 年前と比べると少しは女性の社会進出は進

<p>委員</p>	<p>んだけれども男性の意識がなかなか変わらないのでそのあたりは難しいといったご意見でしたが、どうですか？</p> <p>女性の意識は向上しているとは感じています。ただ制度や男女の考え方は寄り添っていないのかなと思います。例えば審議会の女性登用促進やリーダーの育成をとれば、今まで男性専用の部屋があってそこには女性は立入禁止だったんですよ、でも今からは女性が入れますよとなった時に、入り方がわからない、本当に入ってもいいのか想像しにくいと思うんですね。入るためにはどうすればよいか、委員にどうしたらなれるかというやり方とかモデルケースを提案すれば女性もその部屋に入っていけるんじゃないかと感じました。</p> <p>DV 相談については、実際知り合いの方が DV の相談に行った時に、DV や離婚に対して強い弁護士を紹介してもらったのに紹介してもらえず、新居浜市で活動している弁護士でこの方はこういった案件に強いとかプロフィールを紹介してほしいと言われていました。そういった情報の提供があれば女性もより相談しやすかったと思います。</p> <p>男女の雇用の観点から見て、企業の経営者の方は、育児や介護などの制度に対して「損だな」と感じて制度を取り入れていない方もいると思うのですが、長期的に見たら、介護などは必要になってくると思うので、経営者向けの企業の講座、例えば介護や育休制度を取り入れた方が長期的に会社の発展に繋がりますよといったような実例を見せてあげればよいのかなと思います。</p>
<p>コーディネーター</p>	<p>男女がともに活躍する環境づくりが大事であるということ、DV 相談については相談しやすい環境づくり、紹介のネットワークのような情報発信、また企業で女性の雇用を増やしていくために企業の中の環境整備を進めていってはどうかといったようなご意見でした。</p> <p>何かほかにご意見はございますか？</p>
<p>委員</p>	<p>「男女」でよいのかなという事を思いました。これから性同一性障害やジェンダーと言われている人たちも増えてくると思います。この前知り合いの方が男性同士の結婚式に行くといっ</p>

	<p>たので「さすがアメリカだね」という事を言ったら「岡さんはまだそんな考え方なんだね」と言われました。10年後は少数ですけれどもそういった事は増えてくると思うので、男女だけで分けていいのかなという思いはしました。</p>
コーディネーター	<p>新しいといえますか、これから考慮、配慮していく必要があるテーマの一つかなとは思っています。</p>
委員	<p>私も会社生活、子育てをしてきたんですけど、家内に対して、育児の協力とか家庭の仕事のお手伝いとか一切していません。今の若い子は、洗い物とか洗濯とかしていますが、それが良いとか悪いとか意見はあると思いますが、私が思ったのは、男女共同参画の推進というのは、赤ちゃんができて小さい子供を連れて安心して会社で働けるような環境づくり、企業の応援だとか市や地域の応援をしてくれたらと思います。私どもの公民館でも色々な事をしてますが、保育園や幼稚園に入る前の小さい子供を集めて、月1回「えんぜるっこ」というのをやっております。</p> <p>お母さんがそこへ来て、親子で遊びや相談をする中で、他のお母さんとお友達になって、地域の中に入って行く。そんなお母さんの中にも多分仕事をしたいという感覚を持っていると思いますが、仕事がしやすい環境づくりを具体的に進めてもらえたら嬉しいと思います。</p>
コーディネーター	<p>子どものいる親の働きやすい環境づくりとか、出産・子育て・育児に関する切れ目のない支援ができれば、というような意見でした。</p>
委員	<p>確かに我々が子育てしていた時代よりも正直子育てとかそういう事に対する意識は高揚したと思います。ただ、男女共同参画というのは、批判を受けるかもしれませんが、いくら共同参画をしても我々は子供を産めないんです。先ほどから日本の企業がとおっしゃりますが、日本の企業の90数%が中小企業で、当然、私どもも小さい子供のいる社員に自由に都合のいい時に休んでもいいよといいながら、インフルエンザで1週間とか、子どもが何人かいると下手すれば1カ月近く休まざるをえな</p>

	<p> くなった時に、他の従業員に負担がかかってくるのも事実です。簡単に言われますけど、厚労省が子育ての分で補助金を出しますよと言っても1回だけです。継続的に我々中小企業、弱小企業が人数も削減してかつかつでやらないと皆さんに給料を出せないというのが現状です。そのところを踏まえてどのようにしていくか、言い方が変ですけど、働く人側だけ言われても、企業としてはできないんです。住友さんみたいに大企業で従業員が沢山いて制度が充実している、一方では働き方改革で正社員を増やしましょうと言われながら休まれた時に我々はどうするのかという非正規社員以外の人を雇うというやり方しかできないというのが現状だろうと思うのですが、ああしてほしいこうしてほしいという事は簡単なんですけど、どのようにしたらいいのかというのは両方の意見を聞きながら、私もサラリーマンの時は好きな事を言えていたけど、逆になると会社を投げ出すわけにはいかないのが難しい。またお母さんの勤めている会社は理解できていてもお父さんの勤めている会社が理解を示さないと両方で子育てできないという、昔は母親が中心となるのが現状だったが、今でもどんなに父親が子育てに関わっていても病気をしたらやっぱり子供は母親にべったりになる。そうするとやはりそこに役割分担をはっきりしておかないと、なんでもかんでも男女共同参画という形では凄くしんどくないですかと思います。昔から言っている我々の言っている男らしく女らしくという言葉は差別用語といわれますが、やはり「らしく」ではなくて、役割分担があるように思うのですが、そこらへんが皆さん表面だけで議論していたら余計しんどくなってくるとは思いますがいかがでしょうか。 </p> <p> 今の馬越委員さんのご意見に大賛成なんですけど、この男女共同という言葉ができたのが、私が愛媛県から男女共同参画ということでタイへ派遣してもらったんですが、それが昭和62か3年だったと思うのですが、そんなに昔なんです。その時に男女共同参画という言葉が出てきて、凄いなと思ったんです。でもいまだにこの言葉が使われているということは考えるところがあります。私がよく付き合うのは外国人で、外国の人は男、女というのはあまりないので「えっ」と思う事がたくさんあります。この前もニュースで「レディファーストって何？」みた </p>
--	--

委員

<p>コーディネーター</p>	<p>いな話がありましたが、さっきのご意見の通り、男・女というのはもうそろそろ除けてもいいのかなと思います。そして、岡委員さんがおっしゃった「多文化共生」のところに入っていくのではないかと思います。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>色々ご意見がありますが、男女という性差ではなくて、誰もが輝ける多様な豊かな社会づくりみたいなものが目指すべき方向性のひとつではないかなと思います。</p> <p>時間がきましたので、男女共同参画についてはここでおしまいにしたいと思います。</p>
<p>コーディネーター</p>	<p>多様な主体による協働の推進について <作業シートの説明></p> <p>市民と行政との協働、ボランティアの推進が大きなテーマとなっている。協働は第5次の中でも大きく取り上げられていたが、第6次でも大事になると考えている。それぞれの強みを生かして進めていくことが大事である。行政は予算があり、公平公正なサービスが提供できるが、時間がかかり、コストが高くなることがある。一方、市民団体は柔軟に、迅速に対応でき、安いコストで実施することが可能となる。それぞれが持っている強みを生かしながら新しいサービスの取り組みができないだろうか。ボランティアに関しては、働き方改革やワークライフバランスにより、ゆとりの時間が増えることが予想される。今よりも盛んになってほしいと思っている。そのための場づくり、仲間づくりが大切であると考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>ボラセンとはどういうものか。</p>
<p>コーディネーター</p>	<p>市民活動ボランティアセンターのことです。</p>
<p>委員</p>	<p>ボランティアをする子どもが増えている。これは、ボランティアに接する機会が増えてきたことが要因ではないか。学校でボ</p>

委員	<p>ランティアに参加する機会を設け、そこに保護者も参加すれば、もっとボランティアが盛んになるのではないか。</p> <p>小中学生が盛んにボランティアをしてくれる。学校の校長、教頭先生が動いてくれると盛んになる。高校生などには就職・進学時にボランティアをしたことが有利になるように市として働きかけてほしい。</p>
委員	<p>ボラセンに登録している団体はたくさんあるが、一番困っているのは高齢化。講座を募集しても若い人がこない。昼間は若い人は働いているので繋がっていかない。ボランティアは有償か無償かが問題で、有償ボランティアをしているという、「ボランティアなのに有償？」とよく言われる。日本人はボランティアは無償と思っている人が多いが、有償のものがあることも理解してほしい。市と協働事業をしているが、市はお金は出すけれど丸投げのことがある、協働とはお互いに出しあってするのが、協働だと思うので、協働の定義について考えてほしい。</p>
コーディネーター	<p>ありがとうございました。若い人の参加が少ないとのことなので、若い人の意見を聞いてみましょう。</p>
職員	<p>ボランティアは出来るならやってみたいとの意識を持つてる人が多いと思う。きっかけがないとか、場がないとかで一步踏み出せないのではないか。SNSを使って情報の発信をして、気軽に参加できるような若い人を巻き込む体制ができればいいなど思っている。上原自治会館で月1回子ども食堂をやっている団体があり参加している。そういうことをするだけでも、すごいなあと感じている。横のつながりができると災害などのいざというときにも協力していろんなことができる。</p>
コーディネーター	<p>ボランティアのマッチング、ボランティアをしたい人とボランティアを探している人をうまく結びつける仕組み作りが重要であるという意見でした。</p>
委員	<p>市はボランティアの定義をどう考えているのか教えてほしい。先日高専の先生と話をしていると、今の学生は、物欲はないけ</p>

	<p>れど人の役に立ちたいと思う気持ちはあると言っていた。では、なぜ後継者ができないのか。日本人は奉仕とボランティアを混同していて、受けたら無償でやれ、会社休んででもやれと言われているようで、言われなくても、そういう風潮があるのではないか、それではしんどいのかなと思う。市ではボランティアは無償と思っているのか聞きたい。</p>
<p>コーディネーター</p>	<p>私の個人的な考え方ですが、前回岡委員さんが、自分ができることをできる時間でやると言われたが、その通りだと思う。ボランティアをやりたい若い人が増えてきているが、自分ができること、特技を生かして社会に貢献することがボランティアではないかと思っている。ボランティアは無償という考え方は根強い。しかし、阪神淡路大震災の後、ボランティアが急速に広まり、その中には、有償ボランティアの考え方がある。有償、無償にこだわりはない。</p>
<p>委員</p>	<p>本当の意味のあるボランティアをするには有償でないといけないと思っている。地域にはボランティアに興味がある人と全くない人がいる。今からは、いるものはいるという考えを持たないと長続きしないと思う。多喜浜では小学校・公民館を中心に塩田（塩）に関する活動を10年くらい有償で続けている。無償でやっていたら続いてなかったと思う。これからは、NPOを立ち上げて、市も費用を出すようになるとボランティアは増えていくと思う。</p>
<p>コーディネーター</p>	<p>活動を永く続けるためには、行政、企業からの活動支援の仕組みを作るのが大きな課題です。</p>
<p>事務局</p>	<p>続いて、国際交流のテーマに移ります。 <作業シートにて説明> 今後10年間で外国人の増加が見込まれるので、国際交流協会を中心に、外国人の生活支援、地域の国際化の促進、外国人を受け入れる側も国際理解、多文化共生社会への理解が必要となる。この二つを大きな柱として今後10年間事業を推進していきたいと考えています。</p>

委員	<p>愛媛新聞で「ふた僕」の映画を台湾で PR してきたとの記事を見たが、国際交流協会には何の連絡もなかった。知っていれば、市内に住んでいる台湾人から SNS 等で台湾に情報を発信できたのではないか。担当課だけで完結するのではなく、横のつながりが大切だと思う。日本語教室はふれあいプラザで週 2 回実施しているが、多喜浜から自転車でふれあいプラザまで行かせるのは心配なので、多喜浜公民館などでも日本語教室を実施してもらえないかと企業の方から言われた。今後は複数個所で実施することを目標にすることが必要と思う。</p>
コーディネーター	<p>連携して事業を実施することが必要である。十分注意して事業を実施するようにいたします。日本語教室については、実施個所を増やすことを検討しないといけないという意見でした。</p>
委員	<p>企業に勤める外国人は自転車を利用しているが、交通マナーが悪い。企業は企業内のルールは教えるが、交通マナーの講習などはしない。行政が企業を支援・指導しなくてはいけない。そうすればそこで働く外国人も安心して生活できると思う。</p>
コーディネーター	<p>企業との連携も今後進めていきたい。外国人を受け入れる意識も変えていかなくてはいけない。地域で外国人を受け入れるために何が必要なのでしょうか。</p>
職員	<p>地域でと言われましたが、私が働いている市民課では外国人を見ることが珍しくなくなった。外国人の方は窓口で言葉が壁になり対応に時間がかかり、不安になることのないよう、今年度タブレットを導入し多言語対応している。地域では外国の方との関わりはないが、小学校に ALT が配置されているので子どもたちの方が国際化が進んでいると感じている。</p>
委員	<p>市民課など市役所の方には、やさしい日本語を勉強してそれを使っていただきたい。これは外国人だけでなく、高齢者や障がい者にも使えるものです。</p>
委員	<p>地域で国際交流をといわれるが、事前に何の情報もなく外国人が集団で自転車に乗ってやってくると地域の人は不安を覚え</p>

	<p>る。高齢者の中には怖いと思う人もいる。地元で外国人の情報の提供があってもいいのではないか。外国人と会話をしたい場合、通訳を呼ばなくては行けないが、最近、翻訳機のいいがあるので、自治会に貸し出すなどしてほしい。</p>
<p>委員</p>	<p>新居浜市の場合、外国人は昼間働いているので姿が見えないが、休日に自転車に乗ってみんなで買い物に出かける。その時集団になっているので、怖いと思うかもしれないが、国際交流協会ではこれまで2回市役所でロビー展を実施し、外国人の状況を紹介し、市民向けの国際理解セミナーも何回も実施している。ここ2、3年で急に外国人が増えた。今から市民に対する国際理解講座を実施し、教育していかないと行けない。交流を国際理解に繋げていかないと行けない。</p>
<p>コーディネーター</p>	<p>情報を発信していくこと、国際理解を推進することが大事である。言葉の問題の解決に向けてできることはないかということだと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>2月に外国人20人に餅つきを体験してもらう国際交流事業を実施する。そこでは日本の伝統的な遊び、けん玉なども体験してもらう予定である。</p> <p>惣開では地域のイベントに企業で働く外国人が参加してくれるので、特殊な目で見ることではなく、一緒に活動している。</p>
<p>コーディネーター 事務局</p>	<p>地域コミュニティ、移住・定住の促進に進みたいと思います。 <作業シート6-6の説明></p>
<p>コーディネーター</p>	<p>18の校区連合自治会で地域の魅力を高める事業を実施していただいている。また、公民館を中心として教育力向上プロジェクトとして地域の課題解決や地域の魅力づくりの事業を実施しております。どちらも方向性は同じでございます。自治会と公民館の融合を数年前から模索している。第6次の今後10年間で地域の組織づくりと公民館を含めた拠点づくりを進めたいと考えている。地域と行政が協働で支援体制を充実させて地域づくりを進めていきたい。自治会の加入促進については、防犯・防災・独居高齢者、単身世帯も増加するので、単位自治会について5次と同様に加入促進に取り組んでいきたいと考</p>

委員	<p>えている。</p> <p>移住・定住についてですが、四国中央市などでは、よく「シコチュー」などを使ってパンフレットや新聞により広報しているのを見かけるが、県内においては各市町間で移住者の取り合いになっているのが現状と思われる。よって、新居浜市でも独自性のある移住定住策を推進していく必要があり、例えば企業とのコラボにより、仕事も準備します、住居も準備します、といった方法をとる方が、新居浜に来てくれる人の増加に繋がるのではないかと。</p>
コーディネーター	<p>新居浜を選んでいただくためには、魅力ある独自の取り組みが必要だという意見でした。</p>
委員	<p>新居浜には大学や短期大学が無いことが、若者の流出に大きく影響していると思う。自分の同級生たちもほとんど転出してしまい、県外市外で働き生活している。高校生のほとんどが大学等へ進学する時代に、一度転出した若者が戻ってきえるのかという不安があるので、一番の移住定住の解決方法としては、新居浜に大学・短大を作って、学生がそのまま新居浜で就業できる環境を整えることが効果的だと思う。</p>
コーディネーター	<p>新居浜に大学は無いことが、高校卒業時の人口流出の大きな原因となっていることはおっしゃる通りだと思う。高校においては東高のスポーツに特化した学科や西高の医療系の進学に特化したコースが出来たりしているが、大学は無いので、出身者が戻ってこられるように、仕事や子育ての面を充実させ、新居浜に住みたいと言ってもらえるよう環境づくりに取り組んでいく必要がある。</p>
委員	<p>住友化学さんだけで、年間約60人の新入社員が新居浜に来ていたとの話を聞きました。この人たちに、どのようなものが新居浜に有れば将来的に新居浜に住んでくれるのか、逆にアンケートを取ってみればいかがでしょうか。</p>
コーディネーター	<p>担当課も含めて積極的に取り組んでいきたいとします。</p>

委員	<p>以前公民館主事は市の正規職員だった。どういう理由で引き揚げたかはわからないが、正規職員が公民館で地域のことを学んで本庁に帰って市政に反映していくことは考えられないか。昔辞めたことでも、よかったと思うことは復活させることもありなのではないか。地域活性化で地域と行政がかかわるなら、公民館は地域の中心なので、その公民館で職員が学ぶことはいい制度だったと私は思う。</p>
コーディネーター	<p>公民館をどうしていくかは教育委員会を中心に議論している。もう一度公民館に正規職員をとということですが、公民館で地域のことを学んでもらうのは大事だという考えはあります。地域コミュニティの再生で組織づくり・拠点づくりについて、関係の皆様にお集まりいただいて、市民検討委員会を立ち上げ今後のあるべき姿について検討する予定としております。</p>
委員	<p>大学を誘致するのは人口増加、地域活性化につながる。やはり若者の力が必要。今治市には大学ができたのでこれから進んでいくと思う。新居浜市にも大学をおけるような体制作りをしてほしい。</p> <p>公民館が地域活動の核となっている。公民館と地域を一体化することで地域が活性化する。地域が活性化することによって、新居浜全体が活性化する。組織、拠点づくりは大切なことだと思う。自治会館の耐震化については、自治会館でPPK体操をする自治会が増えている。高齢者の健康増進と自治会の活性化にもつながるので進めていただきたい。自治会の加入率はどんどん下がっているが、これからは行政と一緒に支えていかないといけない。みんなが集まってくれることで地域が活性化するので進めてもらいたい。</p>
コーディネーター	<p>ありがとうございました。若い人が新居浜に魅力を感じるようなまちづくりが必要というご意見です。</p> <p>お時間がきまりましたので、最後に一言いいたいということがあればお願いします。無いようですので、次回の会議についてです。</p>
事務局	<p>次回は1月29日(水) 10時から市役所5階大会議室にて会</p>

事務局	<p>議を開催いたします。</p> <p>会の案内文はお手元に配布させていただいておりますので、ご出席よろしく願いいたします。</p> <p>第4回目の会議案内が急になってしまい申し訳ありません。</p> <p>第2回、第3回とワークショップ形式で皆様から頂いた意見を取りまとめて、次回の会議で第6次に向けてのワーキンググループの意見として取りまとめたいと考えている。長時間にわたりありがとうございました。</p>
委員	<p>事前に資料をいただきたい。</p>
事務局	<p>わかりました。</p>
座長	<p>それでは、これにて第3回新居浜市政策懇談会第4ワーキンググループ（市民安全）会議を終わります。長時間にわたり熱心にご審議いただきありがとうございました。</p>

